

乳製品価格上昇と飼料費低下が EU の生乳生産の回復を促すと予想

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2024 年 12 月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会 12 月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EU の牛乳乳製品市場の近況として、①2024 年 1～9 月の生乳生産量は前年同期に比べて 0.2%増加したこと、②生乳取引価格は 1 キロ当たり約 50 ユーロセントとなり、9 月は前年より 14%上昇し、この 5 年間の平均を 22%上回ったこと、③平均乳製品価格はエメンタルチーズを除きこの 5 年間の平均を上回ったことなどを報告している。また、世界の主要輸出国・地域では 9 月の生乳生産量は前年に比べて 0.5%増加したが、出荷量の拡大に苦戦する国もあることを報告している。EU の市場は堅調で、乳製品価格上昇と飼料費低下が生乳生産の回復を促すと予想している。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った。)

MMO 経済委員会の第 52 回会合は、2024 年 12 月 4 日に、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家が参加してビデオ会議で開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- EMB(欧州酪農委員会)
- ECVC(ビア・カンペシーナの欧州組織)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EDA(欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce (欧州商工会:小売業を代表)

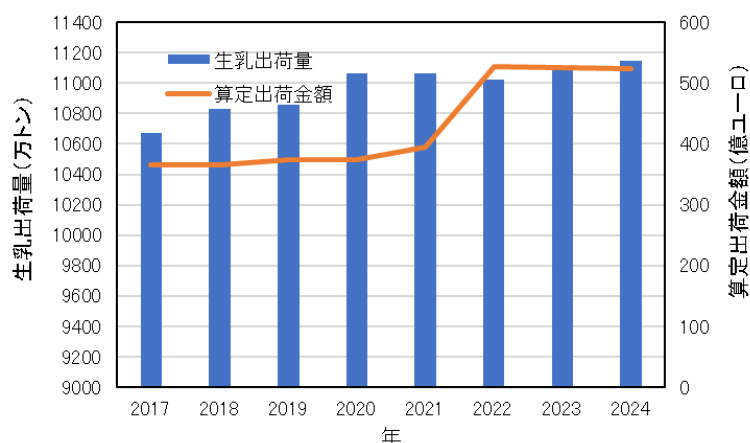
会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EU の 2024 年 1～9 月の生乳生産量は 0.2%増加

9 月の生産量は前年よりも 0.1%とわずかに増加し、1～9 月の EU の生乳生産量は前年同期に比べて 0.2%増加した(閏年調整済)。1 億 1150 万トン近くの生乳が出荷され、算定

出荷金額は 521 億ユーロを超えた。出荷量はポーランド、フランス、イタリア、エストニアで増加しているが、アイルランド、オランダ、デンマーク、ドイツでは減少している。2024 年 1～9 月における EU の生乳生産の算定出荷金額は、2023 年同期に比べて 0.9%減少した(図 1)。

図1:EUの1～9月の生乳出荷量と算定出荷金額



ルクセンブルクの数値は非公開のため、含まれていない。

出典: MMO economic board meeting report - 4 December 2024 (*1)を基にJミルク作成

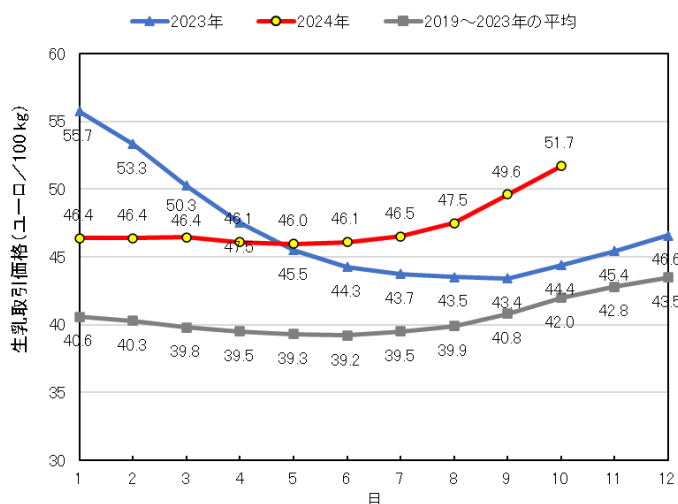
2024 年 1～9 月の EU の乳製品の生産量はバター(-2.2%)、全粉乳(-0.6%)、脱脂

粉乳(-0.1%)が減少したが、チーズ(+2.8%)、濃縮乳(+8.5%)、発酵乳(+4%)、クリーム(+3.4%)は大きく増加し、飲用乳(+0.8%)もわずかに増加した。

EUの生乳取引価格は1キロ当たり約50ユーロセントに

EUの平均庭先(牧場出荷)乳価は、2024上半期は比較的安定していたが、直近の数ヶ月は上昇し、1キロ当たり約50ユーロセントとなっている。9月の乳価は前年より14%上昇し、この5年間の平均を22%上回った(図2)。

図2: 生乳取引価格 (EU加盟国平均)



出典: EU historical prices. Milk Market Observatory.

2024年9月に集荷された生乳の3.4%が有機で、その内の87%は6か国(ドイツ、フランス、デンマーク、オーストリア、スウェーデン、オランダ)で生産された。EUの有機生乳の平均価格は1キロ当たり56.2ユーロセントであった。3か国(ラトビア、ルーマニア、アイルランド)では、有機生乳の価格は通常の生乳よりも低かった。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は2022年以降下落しており、現在は2020年11月と同水準である。

EUの平均乳製品価格はエメンタールチーズを除きこの5年間の平均を上回る

EUの平均乳製品価格(2024年11月24日)は、エメンタールチーズ(-0.8%)を除き、この5年間の平均と比較して高くなっている(表)。2024年初に比べると、脱脂粉乳(-3.4%)の価格のみが低くなっている。バターの価格(775ユーロ/100キロ)は依然として非常に高い水準にある(5年間の平均と比べて+46.9%)。

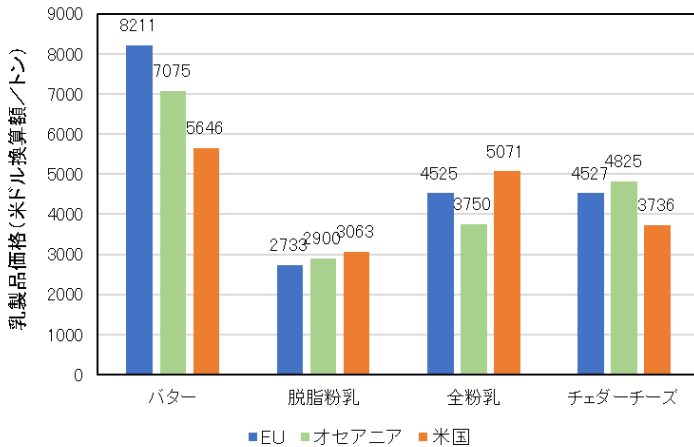
なお、米国はバターとチェダー、オセアニアは全粉乳、EUは脱脂粉乳の価格が三大輸出国・地域の中では最も低くなっている(図3)。

表: EU加盟国の平均乳製品価格(2024年11月24日)

	バター	脱脂粉乳	全粉乳	チーズ				ホエイパウダー
				チェダー	エダム	ゴーダ	エメンタール	
価格(ユーロ/100キロ)	775	260	433	430	495	482	609	96
価格の比較(増減%)								
1週間前	+0.5%	+4.4%	+3.5%	+3.2%	+4.8%	+3.0%	-0.1%	+4.7%
1か月前	+41.3%	+1.6%	+17.2%	+20.8%	+14.3%	+10.1%	-0.2%	+11.8%
2024年初	+61.5%	-3.4%	+22.2%	+16.3%	+26.6%	+23.6%	+14.2%	+10.0%
1年前	-0.6%	+0.3%	+0.6%	+0.4%	+0.3%	-0.8%	-2.2%	+1.1%
5年間の平均	+46.9%	+0.1%	+20.3%	+18.6%	+17.2%	+14.4%	-0.8%	+14.3%

出典: MMO economic board meeting report - 4 December 2024 (*1)を基にJミルク作成

図3: 世界の乳製品相場(2024年11月24日)



出典: MMO economic board meeting report - 4 December 2024 (*1)を基にJミルク作成

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品量に基づくEU在庫レベルの評価では、脱脂粉乳在庫量(13万トン)は、生産量の減少により前年よりもわずかに減少した。一方、バター在庫量(10万トン)は、国内生産量の減少、輸入量の減少、安定した世界需要により、前年よりも大きく減少した(-10万トン)。チーズの在庫量(40万トン)は域内需要と輸出の好調により、ここ数年よりもやや減少した。

世界の主要輸出国・地域の一部では生乳生産量が減少

世界の主要輸出国・地域では9月の生乳生産量は前年に比べて0.5%増加したが、一部の輸出国は出荷量の拡大に苦戦している。2024年1~9月の生乳生産量は、前年同期に比べて、ウルグアイ(-4.9%)、英国(-0.3%)、アルゼンチン(-9.8%)、米国(-0.6%)で減少した。ニュージーランドとオーストラリアは、新しいシーズンのスタートが非常に好調で、全体的な出荷量は2023年よりも増加している。

世界の乳製品貿易は、2024年第3四半期

に増加し、特にチーズとホエイの輸出増加によって2024年1~9月の乳製品輸出量は、2%増加した。三大輸出国・地域(EU、ニュージーランド、米国)の輸出量は、総輸出量の81%を占めている。

2024年1~9月のEUの乳製品輸出先の上位5か国は、英国、中国、アルジェリア、米国、インドネシアであり、それらの国の輸出量のシェアは全輸出量の40%であった。英国と中国へのEU輸出は減少したにもかかわらず、依然として第1位と第2位の輸出先であった。輸出増加率が最も高かったのはフィリピン、インドネシア、米国であった。中国の乳製品輸入は11%減少した。

EUではインフレ後の小売販売が回復

インフレ危機があった後、小売販売は緩やかに回復している。スーパーマーケットでの牛乳乳製品の販売は、今年、一部のEU加盟国では金額と数量の両方で増加した。有機乳製品は2021年から2024年の間に市場シェアを失った。

EU内外での家畜疾病の蔓延(EU北西諸国でのブルータンク、EU中南部諸国での家畜流行性出血病、米国での乳牛の鳥インフルエンザウイルス感染の状況)、中国が実施している(EU産乳製品に対する)反補助金調査、EUの一部地域での出荷量減少(家畜疾病の蔓延や環境規制の影響などによる)の可能性などから生じる潜在的な市場への影響について意見交換が行われた。

乳製品価格上昇と飼料コスト低下がEUの生乳生産の回復を促すと予想

全体的にEU市場は堅調で、乳製品価格上昇と飼料費低下が主要輸出地域の生乳生産の回復を促すと予想される。地政学的緊張、

保護主義の高まり、家畜疾病の蔓延などの懸念が残る一方で、見通しは前年よりも明るい。

参考資料:

- 1) https://agriculture.ec.europa.eu/document/download/0b3a9b84-0373-4a79-bde9-29461af15a9d_en?filename=mmo-report-2024-12-4_en.pdf MMO economic board meeting report - 4 December 2024. European Commission.

(資料閲覧:2024年12月23日)

(担当:Jミルク 国際グループ)